

千代田区食品ロス削減推進計画（案）に対するご意見の概要と区の考え方

No.	意見者	区分および該当頁	意見内容	区の考え方
1	在勤者	区内の食品ロス排出量 計画編 9頁	区内発生 of 食品ロス量の96%が事業系というのは大きな数字。96%を減らすには、条例で大きく切り込まなくてはいけない。	事業系食品ロスを削減していくためには、食品ロス削減推進計画における削減目標達成のための6つの施策（計画編P27～P31）を着実に推進してまいります。
2	在勤者	食品ロスの削減目標 計画編 19頁	食品ロスをいくら減らしても、食品残さは必ず残る。発電等の有効活用策も考えられる。食品ロス削減と同時に、後に残る残さを有効活用できるようなスキームを民間の力を借りながら検討すべき。	食品ロス削減推進計画の上位計画である第4次一般廃棄物処理基本計画において「食品廃棄物の循環システム」の構築を検討することとしております。具体的には、事業所の食品の流通過程や消費段階で生じる売れ残りや食べ残し等の食品廃棄物を堆肥化や飼料化等による循環システムの構築や食品廃棄物を活用したバイオマスエネルギーの可能性等についても検討してまいります。
3	在学者	環境教育・環境学習の推進 計画編 24頁	「環境教育・環境学習の推進」では、地域の大学生と連携することも有効なのではないか。大学で研究した専門的な知識を出前授業のような形で伝えることが効果的である。	区では「千代田学」との連携（計画編P32）などを通じて、区内に立地する専門性の高い教育・研究機関と連携して、環境教育・環境学習の推進など、食品ロス削減の課題解決に向けた取組を推進していきます。
4	在勤者	千代田区型コンポスト制度の導入 計画編 26頁	生ごみ処理機やコンポストの展示会を開くのも一案ではないか。テクノロジーも進んでいるし、最近の新しいニュースも入ってくる。	食品ロス削減に係る情報発信の取組みとして、各種媒体による広報・普及啓発やキャンペーンの実施により、食品ロス削減の意義に対する理解の進化と具体的な削減行動の促進を図ってまいります。
5	在勤者	事業系食品ロスの削減 計画編 27頁	商慣習の見直し、需要に見合った製造・販売、フードバンク等との連携、食べ切り・持ち帰りの促進等の項目について、具体的な分かりやすい目標を出しながら、時間を区切って事業者に対して取組をするような施策を検討したほうがいい。	令和4年度に区内で発生した食品ロス量の約96%が事業系でした。今後、区が取組みとして先進事例を研究するなかで、事業者の規模や活動実態に合わせて、ご指摘の観点も含め、食品ロスの効果的な削減方法を選択できるよう、区内事業者への情報提供を広く行っていくよう計画書本文を追記します。
6	在学者	小規模事業所アンケート調査 賞味・消費期限切れ 資料編 34頁	「消費・賞味期限切れ」による食品ロスが多いことが示されているが、その内訳を明確化できるとよい。それによって、施策の組み立て方にも影響してくる。	小規模事業所における食品ロス（可食部）実態調査において、今後は考慮してまいります。
7	在学者	社内教育 資料編 43頁	食品ロス削減のための取組として、「社員・従業員に対する社内教育」を重視している企業が多いことがわかる。行政が社内教育のガイドマップのようなものを作成して、配布するのも施策として有効なのではないか。	千代田区には大企業の本社ビル等が多数集積していることから、延べ床面積1,000㎡以上の事業用大規模建築物が他区に比べても多くある。この事業用大規模建築物の所有者に選任が義務付けられている廃棄物管理責任者と協力して、社員・従業員に対する食品ロス削減に向けた教育を支援する取組を検討してまいります。